

## パブリックコメントで科学館(仮称)基本構想中間報告書(案)へ寄せられた意見(21人47件)と対応策について

中間報告(案)項目: I 現状と課題、II 目指すもの、III 展開するもの、IV 組み立てるもの、おわりに 左記以外の項目: その他

〈対応状況〉①新たに反映、または修正するもの、②すでに反映しているもの、③今後の検討課題  
④その他(①～③に該当しないもの)

件数	項目	意見の要旨	意見概要	基本的な考え方・対応策(案)	対応状況
1	I 現状と課題	4-(2)課題	・子ども科学図書館は予算を増やせば、今の場所で充実させることができると思う。	○現在、施設と実験設備の狭隘化・老朽化が顕著となり、貴重な標本の保存・展示や新たな科学教室の展開が困難な状況となっていますので、県の考える科学館と融合した子どもたちのための新しい科学施設を、新図書館の付加機能の一つとして整備していくこととしました。	②
2	II 目指すもの	3-(1)人材の育成	・科学館(仮称)基本構想中間報告書(案)を読んだ。理科離れが激しい昨今、素晴らしいことと思う。	○理科好きな子どもを増やし、知的好奇心に溢れた子どもを育成します。さらに、将来、本県の自然科学や科学技術の分野において、リードしていくことのできる創造性豊かな人材の育成に取り組んでいきます。	②
3			・産業振興計画の人材育成・確保の施策との連携も、視野に入れるべきである。日本の将来は、先進技術に支えられた科学技術立国を目指すべきであり、科学館の役割は想像以上に重要となる。		
4		4-(1)コンパクトな都市型科学館	・科学館に抱くイメージは、広い自然の中であって、子ども達が自然に親しみ、動植物を育てることもできる場所であってほしい。利用度から考えると今回の「コンパクトな都市型科学館」はやむを得ないと思うが、ここに盛られている内容はすべて適えてほしい。	○科学館は、高知市の中心市街地にある追手前小学校敷地に新図書館、新点字図書館との複合施設のワンフロア内で整備していきます。 ○面積や構造上の制約はありますが、「小粒でも光る」科学館を目指します。	②
5			・県・市の図書館だけが話されているが、付け足しのような中で不十分なものを作らないように検討して欲しい。		
6		4-(2)意欲を育む体験型科学館	・教育委員会が考えるなら、県下のどの学校の子どもたちにも「科学を学んで欲しい」「そのためにぜひ使って欲しい」と言えるものを作って欲しい。	○子ども自身が日常的に行きたくするような科学館を目指します。そして、高知市以外の子どもたちにとっても、身近な科学学習の場として利活用されるよう整備していく必要があると考えています。	②
7		4-(4)情報センター	・県内の博物館などの施設との連携を重視すること。標本の貸し借り、運営のノウハウ、専門知識の提供、専門家の紹介、派遣などの双方向の実施。	○科学館は、県内の自然科学系博物館や類似施設が有機的に連携した活動を行えるよう、情報センターとしての機能を発揮できるよう取り組んでいきます。	②
8			・県内に散在している関連施設を有機的に連携し現施設を整備保管して、全体で科学館としての機能を果たせるようにしてほしい。		
9		5-(3)学校教育連携機能	・野外での観察会、採集会、科学工作など、子ども科学図書館がやってきたことを継続発展させていくこと。	○子ども科学図書館の実績は充実、発展させていきます。また、県内の小中学校を対象に、児童生徒への科学館学習や観察・実験教室、工作教室、サイエンスショーを開催していくなど科学学習を推進していきます。	②
10		5-(4)ネットワーク	・標本の保存管理。高知県の自然史科学に関する標本を収集保管する活動と、集めた資料保管の収蔵スペースの整備を望む。	○本県の地学・生物系の貴重な標本が県外へ流出していることから、他施設と連携して資料を収集し、保管していくことを含め、標本の保管や収蔵庫のあり方について今後の課題として検討していきます。	③
11			・収蔵庫については、牧野植物園、わんぱくこうちなど、他の博物館等敷地内に、標本収蔵施設を設置することはできないか。		
12	・「ネットワーク機能」については、物理・化学系の博物館や類似の施設が皆無であるため、既設の工業技術センターや環境研究センターなどといった公共研究機関による協力体制を構築する必要がある。		★「既設の工業技術センターや環境研究センターなどといった公共研究機関による協力体制の構築」については、基本構想に追記します。		
13	1-(1)立地場所	・科学館は四国内に立派な施設が単独である中、牧野富太郎や寺田寅彦など高名な科学者を輩出している高知で単独整備どころか狭い所に押し込めようとしていることは非常に残念。	○科学館は、高知市の中心市街地にある追手前小学校敷地に新図書館、新点字図書館との複合施設のワンフロア内で整備する構想ですので、現在のところ、科学館を別の場所に設置することは考えておりません。	②	
14		・科学館をつくとすれば、科学館は遠方からの利用を想定し大型駐車場を備えた広い敷地に作るべき。			
15	III 展開するもの	1-(3)取り扱う分野	・物理・化学分野をもっと重点的に取り入れるべき。報告書案は生物・地学分野に偏りすぎている。 ・新科学館の主な対象領域は物理・化学分野、および先端科学技術とすべき。現在の日本全体の産業構造から考えても、物理・化学領域はゾーンとしての取り扱いをすべきであって、宇宙・地球ゾーンの一部でしか扱わないのはおかしい。 ・大分類としてはたとえば、1. 生命・自然環境、2. 宇宙・地球、3. 物理・化学、4. 先端技術(工学・医学・薬学・農学等)として、理科4教科(物理・化学・生物・地学)に対応する専門学芸員をスタッフとすべき。	○科学館には、自然科学と科学技術の分野をバランスよく配置します。しかし、施設上の制約やスペースに限りがありますので、県内の他施設に収集保管されている分野のものは、それらの情報のみ取り扱うなど、集約と絞り込みをしていきます。 ○常設展示室には、県内の既存施設では対象としていない分野を中心に、「生命・自然環境」「宇宙・地球」「郷土の未来と科学技術」の3つのゾーンを設置していきます。 ○物理・化学分野については、「宇宙・地球」ゾーンと「郷土の未来と科学技術」ゾーンの両方で取り扱っていきます。 ○各ゾーンの具体的な展示内容は、基本計画や基本設計の中で検討していきます。	② ③
				○専門スタッフとして、展示やイベントを企画し、科学館学習を推進する常勤のスタッフを配置できるよう取り組んでいきます。	②

## パブリックコメントで科学館(仮称)基本構想中間報告書(案)へ寄せられた意見(21人47件)と対応策について

中間報告(案)項目: I 現状と課題、II 目指すもの、III 展開するもの、IV 組み立てるもの、おわりに 左記以外の項目: その他

〈対応状況〉①新たに反映、または修正するもの、②すでに反映しているもの、③今後の検討課題  
④その他(①～③に該当しないもの)

件数	項目	意見の要旨	意見概要	基本的な考え方・対応策(案)	対応状況	
16	III 展開するもの	1-(4)利用者の拡大	・まとめを読んで、一層、今回建設する建物は「こども科学館」であるべきと確信した。多くは「子ども」のことにについて検討がされている。高知の未来を託する子どもたちの教育環境を高めることにより、子どもの能力を伸長させていくことが必要とされる。検討委員会の名称が「子ども科学図書館・こども科学館基本構想検討委員会」であり、大人対象も含めた「科学館」について検討をする委員会ではないことも考慮してほしい。	○科学館の主な利用者は、県内全域の高校生までの子どもが中心ですが、子どもだけでなく大人も楽しめる施設として整備していきたいと考えています。	②	
17			・科学館の名称に「こども」が入るのには反対。利用者には子どもが多いと思うが、あくまでも、その子どもたちは将来、科学技術を支える人材となることから、「高知科学館」といった名称が良いのではないかと。	○科学館の名称については、基本構想検討委員会の意見も踏まえ、今後、県・高知市で協議していきます。	③	
18	III 展開するもの	1-(5)体験型重視の活動内容	・系統的・継続的に学べる科学実験教室の実施検討をすべき。 ・自然現象の系統的な学びと体験が可能な定期的・継続的な科学実験コースをアルバイト・ボランティアの協力を得て(土曜日だけでなく)平日放課後にも実施することを積極的に検討すべきではないか。	○科学館では、平日に学校教育の一環として行う科学館学習をはじめ、会員登録制の科学教室、中高生対象の科学クラブなど、定期的な開催に取り組んでいきます。 ★なお、それらの活動が系統的、継続的な学習の場となるよう基本構想に追記します。	② ①	
19			1-(6)新図書館との連携	・科学館はその果たす役割や機能を考えるとき合築する事で機能不全に陥るのではないかと危惧する。	○科学館の大きな特色は、新図書館との併設です。新図書館には科学分野の本が幅広くあり、子どもたちが科学館で疑問に思ったことを図書館で調べることで探究心を高めるといった相乗効果も発揮できると考えています。 ○図書館の会議室を科学館の企画展で利用するなど、建物全体でのスペースの有効活用を図っていきます。	②
20	III 展開するもの	1-(7)プラネタリウム	・全国的に見ても、高知は子どもの科学教育に関する施設に乏しく、このような施設を計画することはこれからの学力向上に大いに役立つことと思う。その中でプラネタリウムの設置が提案されているとのことであるので、是非、「世界で最も先進的なプラネタリウム投影機」とされる「メガスター」シリーズの導入を検討してほしい。	○プラネタリウムの設置の有無及び規模・機能等については、県・高知市で協議し基本計画において明確にしていきます。	③	
21			・小中学校向け学習投影としてプラネタリウムを活用する場合、高知県の広い面積を考えるならば常設の固定式プラネタリウムを利用するより複数台の移動式プラネタリウムを活用した方が効果的ではないか。複数台の移動式投影機を導入した上で科学館・図書館内(会議室・サイエンスホール・図書館内等)に設置可能な館内構造(ドーム設置など)を確保しておけば、展示スペースの柔軟な活用可能性の観点からも有利になる可能性がある。	○最新のプラネタリウムは、宇宙旅行の疑似体験ができるなどエンターテインメント性も高く、子どもから大人までが飽きずに楽しみながら天文・宇宙学習ができますので、最新の機能を持ったプラネタリウムの必要性は認識しています。		
22			・プラネタリウムは、芸西の天文学習館に併設し、実際と対比した施設として整備するのが賢明ではないか。全国で唯一、未設置県であることにこだわらず、ゆっくり考え、全国にまれな設置場所にあるような施設にすればよい。新図書館への併設の一つの階に設ける科学館にむりやり設置することは、体験型を重視した目指すものの中身が互いに制約を受けて薄くなる。他の学習の為にゆとりのある実験室やホールの確保も難しくなる。いろんな面で中途半端になる恐れがある。	○科学館にプラネタリウムが設置できれば、芸西天文学習館との相乗効果も期待できると考えています。 ○現在のところ、県・高知市ともに、科学館やプラネタリウムを別の場所に設置することは考えておりません。		
23			・プラネタリウムの設置については、小規模・内容集約型が必要。			
24	III 展開するもの	2 展示内容	・「科学館」が出来ても「展示型」。ということは学芸員を財政的に期待出来ないから、現状のように退職教員ボランティアでとの考えでは、子どもたちの積極的な参加は期待出来ない。	○科学館は、「見て、触れて、感じて、作って、学び遊ぶ」といった基本コンセプトのもと、体験型展示を重視し、子どもたちが「また来たい」と思える場となるように整備していきます。 ○スタッフとしては、イベントを企画し、科学館学習を推進する常勤の専門スタッフ、それらに協力する非常勤スタッフが必要であると考えています。	②	
25			・常設展示は、牧野植物園や佐川の地質館、各地の水族館、横倉山自然の森博物館、甬喜ヶ峰森林公園での展示と重複しないような工夫をしてほしい。	○県内の他施設に収集保管されている分野のものは、それらの情報のみ取り扱うなど、集約と絞り込みによって科学館の特徴を明確にし取り組んでいきます。	②	
26			・科学のより一層の児童時期からのふれ合いの場にする必要がある。其の為には展示は必要である。	○子どもたちの「なぜ」を、実際に試してみることで「考える」、「わかる」にまで導き、科学の世界へと誘うことができるよう、見るだけの展示ではなく、体験型の展示を多く配置していきます。	②	
27	III 展開するもの	2-(1)生命・自然環境ゾーン	・マイクロ生物を扱える科学館であること。高知県の理科教育で、人材等の点で手薄なのが、プランクトンや土壌動物などの顕微鏡レベルでの生物教材の利用である。特に淡水プランクトンは手間もスペースも大きな機械も不要である。	○常設展示室に生命・自然環境ゾーンを設置し、その中でマイクロ生物を取り扱っていくことを検討していきます。	②	
28			2-(2)-ア宇宙の不思議	・高知市内に県下の子ども達を集めるのはなかなか難しいので、県下を何分割かして拠点となる教育委員会に手軽な天体望遠鏡を用意し、地域のボランティアの力を活用して星空観望会を開くのはどうか。	○芸西天文学習館と連携して取り組んでいきます。	③
29			2-(2)-ウ科学の不思議	・科学館の基本コンセプトに体験型を重視した事に大いに賛成。整備内容に、エコに関連した各種のエネルギー(太陽光等)を活用した発電や電気(静電気、半導体等)、光学(光の屈折マジックミラー等)、力学(てこ、パスカル、アルキメデスの原理等)を応用した機械や仕組み等の物理的領域、原子、核、物質の構造や成り立ちを教える化学的領域も加えた題材や学習の機会も増やしてほしい。	○常設展示室に宇宙・地球ゾーンを設置し、その中で物理や化学領域の学習活動ができるよう取り組んでいきます。	②
30			・徳島のあすたむランドのような雷発生装置のように実験が楽しめたらいいと思う。	●展示の具体的内容については、今後、基本計画や基本設計の段階で高知市と協議し決定していきます。	③	

## パブリックコメントで科学館(仮称)基本構想中間報告書(案)へ寄せられた意見(21人47件)と対応策について

中間報告(案)項目: I 現状と課題、II 目指すもの、III 展開するもの、IV 組み立てるもの、おわりに 左記以外の項目: その他

〈対応状況〉①新たに反映、または修正するもの、②すでに反映しているもの、③今後の検討課題  
④その他(①～③に該当しないもの)

件数	項目	意見の要旨	意見概要	基本的な考え方・対応策(案)	対応状況		
31	IV 組み立て	1 施設構成	・計画がやっと立ち上がってうれしい。計画案を見て「随分狭苦しい・言い訳程度」の科学館に驚いた。高知県の学力の低さを嘆き、その責任を「教育の場」に一方的に押し付けて良いものか。「学べる環境作り」より「観光県高知」に、「地味な人づくり」より目先の「金儲け」に一生懸命のように映る。	○新図書館、新点字図書館との複合施設として、面積に制約がある中で整備しますので、基本計画・基本設計の段階で、「例えば新図書館の会議室を科学館の企画展で使用する」といった3施設併設によるメリットを活かし、建物全体でスペースを確保していくことを検討していきます。	②		
32			・科学館本体のスペースの確保について、来場者から見える部分＝展示分については、十分なスペースを確保すべき。				
33			・子どもたちが遠足で使えるように十分なスペースを確保すべき。未来を背負う子どもたちに科学の楽しさを十分に堪能できる様に、ひいては自然・物理・地学・化学・生物・歴史など、もっと学べるものを根本から考え直すべきだと思う。例えば、100名前後の子どもたちが遠足に来た場合、現在考えているスペースで十分なのか。科学の実習や、工作の実習など十分に出来て、展示も十分となると、計画している大きさではまったく対応できないと考える。				
34			・見学や実習などには相応の空間が要求される。収蔵スペースも既に狭いとわかっている現在の計画案は、是非とも再検討を要する。			○スペースを有効的に活用できるように工夫をし、展示物は巨大で固定的なものではなく、繰り返し挑戦してみたいくなるような論理的思考を高める体験型展示を多く配置していくよう、取り組んでいきます。	③
35			・プラネタリウムができるのは嬉しい。構想や理念は素晴らしく、その通りであって欲しい。しかし、スペース案を見てそれができるかどうか疑問。 ・体験・実験のスペースは十分とって、大人も子どもも遊びながら学べる知的好奇心を満たせるものにして欲しい。案にある予定地では難しいと思う。			○科学館はコンパクトですが、子どもに愛され、きらりと光る科学館を目指していきます。	②
36			・新図書館の書庫、新点字図書館は全体スペース、科学館(仮称)はバックステージの面積不足が強く挙げられている。3館とも面積不足があきらかな構想で、追手前小学校グランド部分への建設は、十分に機能が発揮できるだけのスペースがとれない。			○科学館は、薫蒸施設を含めた一定規模の収蔵庫を持つことが困難ですので、別途に設けるなど収蔵庫のあり方については、今後、検討していきます。	③
37			・学校ぐるみでの遠足・研修に耐えうる広さを確保できるのか。				
38			・生物標本の所蔵管理に特に配慮すること。薫蒸施設や標本搬入口のための入口も必要。				
39			・資料にとって安心できる展示施設の整備。高知市中心市街地に、標本を安心して展示できる展示室の整備、多様な展示が構成できるようさまざまな展示資料の整備を望む。			○展示資料については、基本計画・基本設計の中で具体的に検討していきます。	
40	2-(2)スタッフ、ボランティアについての考え方	・報告書中の高知県が成長するためにⅡ-5-(1)の中で、県内の科学者や技術者、研究者という文面があるが、県内の優れた専門家はもちろん、高知県が成長するためには、県内にとどまらず、県外、国外からも呼ぶべき	○科学館を機能的に運営するには、優秀な人材を確保することが重要ですので、県内外の大学や企業、関連する公的組織などの外部機関から、人材派遣がなされるような仕組みづくりを検討していきます。	②			
41	2-(2)-①スタッフ	・生物分野の専門家を置くこと。自分自身のテーマを持っていて研究活動ができ、若い人がよい。学芸員の資格は不要。	○科学館には、展示やイベントを企画し、科学館学習を推進する常勤の専門スタッフを配置できるように検討していきます。	②			
42		・設立準備室を整備し、環境活動だけでなく標本の保存管理のための知識を有する専門職員(学芸員資格を有し、博物館等施設での勤務経験を有する)の配置を希望。	○施設規模に制約がありますので、標本の収集・保存管理という博物館的な要素は最小限にとどめます。				
43	2-(2)-②ボランティア	・「友の会」を設置すること。行政でできないのであれば、民間で作るので組織機構として「友の会」の居場所を用意してほしい。(ボランティア)	○科学館を自分たちの財産としてとらえ、積極的に科学館活動を支えていこうというボランティアを養成していきます。	②			
44	おわりに	・高知市以外の子どもたちへの配慮について、移動科学館は、特別な車両でなくても実験装置などを各学校へ運ぶだけでその機能を果たせるのではないかと。科学館施設を利用した理科学習をするためには、無料で利用できる専用バス等を整備し、学校の遠足等で利用しやすくする。	○県内のすべての子どもたちにとって科学館が身近な施設となるよう、1人が年間に複数回来館するための具体的な手法や仕掛けを、いただいた意見も踏まえ、今後、検討していきます。	③			
45		・登録博物館または博物館相当への対応してほしい。新しい科学館には、博物館としての諸機能とスタッフを充実させた登録博物館であることが望まれる。	○登録博物館または博物館相当施設を目指していますが、施設規模に制約がありますので、標本を収集・保存管理という博物館的な要素は最小限にとどめます。	②			
46	その他	・科学館に誰でも毒検査を安く調べるところがあればよい。	○科学館での実施は困難であると考えています。	④			
47		・(プラネタリウムの設置は)規模が大きく成り易いことから、将来の本格的建設・立地を臨んだ方がよい。その時、新科学館は臨時の役割を終え、プラネタリウム設備と、新科学館は、原案「新県市図書館案」の内容より脱出し、より本格的な「新総合科学館」(県内立地)へと脱皮して其の仮宿(かりやど)たるを新図書館構想より返却するを必要とする。	○科学館は高知市が設置・運営しますが、県内全域をサービスの対象としていきますので、県・高知市が連携・協力して取り組みを進めていきます。現在のところ、別の場所に県単独で設置することは考えておりません。	④			